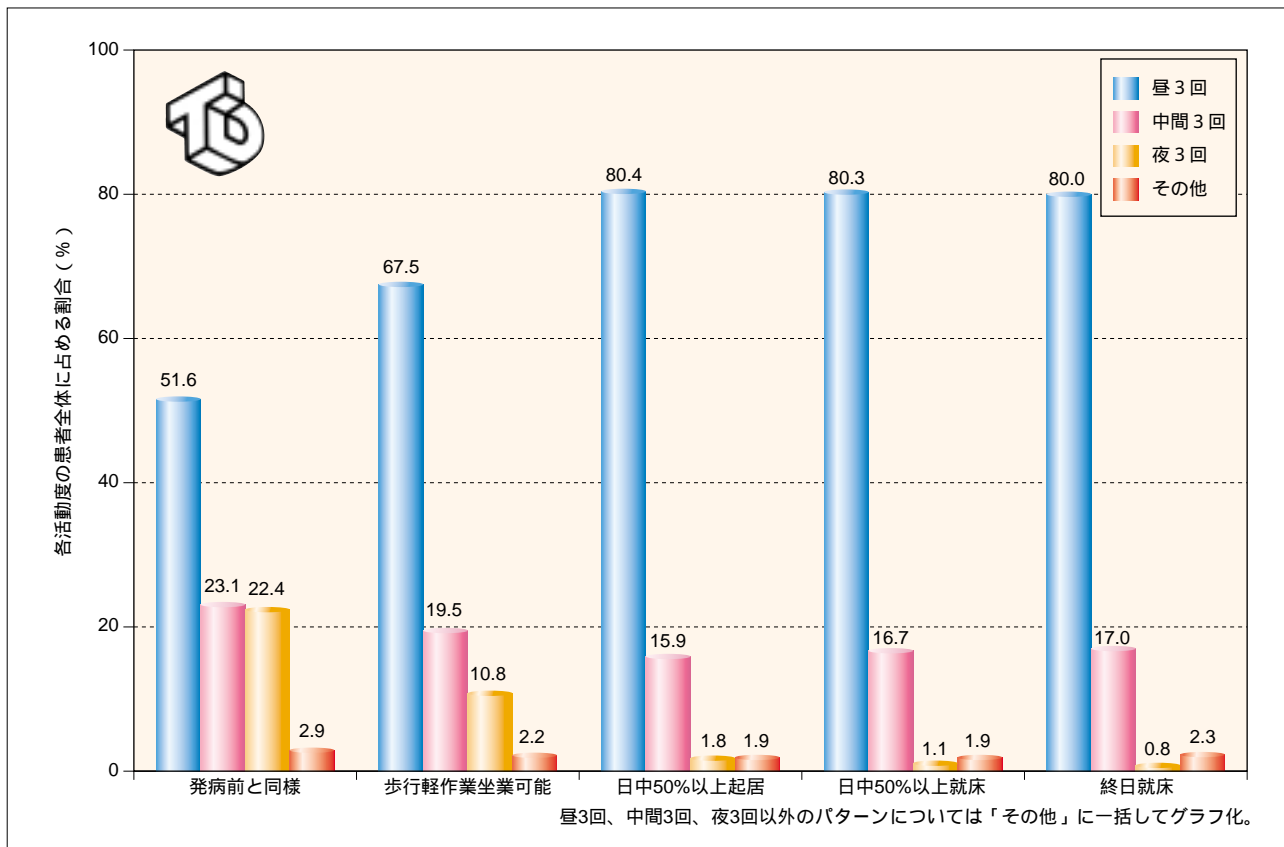


3) 透析パターン

(4) 週3回透析患者の透析パターンと身体活動度 (図表30)



解説

身体活動度別

施設血液透析患者について、身体活動度と透析パターンの関係について集計した結果を示します。

夜間透析患者は身体活動度が「無症状で社会活動可」又は「歩行・軽作業可」の身体活動度の比較的良好な患者にほぼ限られていることが示されました。また、昼透析を実施している患者は「無症状で社会活動可」とされた患者群で最も少なく、次いで「歩行・軽作業可」とされた患者群で少なくなっていました。「日中の50%以上起居している」群よりも社会活動度の低い群では、どの群においても80%前後の昼透析と16%前後の中間透析という比率でほぼ同一でした。

中間透析を実施されている患者は、どの身体活動度においても16%から20%程度で身体活動度による違いをあまり認めませんでした。

以上の所見から、夜透析は身体活動度の高い患者に、昼透析は身体活動度の低い患者に、それぞれ適応される傾向が認められるものの、中間透析の適応に関しては、身体活動度とあまり関連しない基準で適応されているものと考えられます。